

文教厚生常任委員会

委員会開催日 3月9、10日

(文責・川上茂次委員長)

今回、本委員会に付託を受けました案件は議案20件で、審査の結果、原案可決(議案第41号は賛成多数)しました。ここでは、特に審査の中で出された主な意見、要望などをお知らせします。

用して周知に努めたいとの答弁があった。これについては対象が高齢者でもあることから、新年度になつて行われる老人会総会等の機会を捉え、直接周知を図るよう要望した。

【市民福祉部福祉課】

●議案第19号「平戸市介護保険条例の一部改正(2)」について

介護保険の制度周知を!

介護保険料はこれまで7段階での設定であったが、平成27年度から始まる「平戸市介護保険事業計画(第6期)」において、平成27年度から平成29年度については9段階に階層を増やし、特に所得の多い方について保険料が上がるものだが、全体的にも保険料が上がる事が説明された。

このことをどう住民に周知していくのかとの質問に対し、広報およびホームページを活用

●議案第39号「平成27年度平戸市一般会計予算」について

「生活困窮者自立支援事業」

に關し、生活保護に至る前の段階の自立を支援することを目的に設けられた事業で、生活困窮者および生活保護者の就労支援を行う就労支援員と生活困窮者自立支援相談員を配置し、生活困窮者の抱えるさまざまな問題に対し、包括的・継続的に支援していくとの説明があった。「生活保護事業」の医療扶助に關し、ジェネリック医薬品の活用を今後も医療機関等に促し、扶助費削減に努めるよう要望した。

【市民福祉部福祉課】

小学校および中学校の「ICT教育推進整備事業」に關し、平成26年6月に検討委員会が設置され、「分かりやすく、深まる授業」を実現するためにICT機器の導入が今後不可欠であることから、新年度予算に計上したことが説明された。



▶ ICT教育のイメージ

また、平成27年度はタブレットを教師の指導用として各学級に1台配置すること、各教室に大型テレビを設置すること、電子黒板機能付プロジェクトを3教室に1台ずつ導入することが併せて説明された。

今後の導入計画について、特に児童生徒にタブレットを持たせることをどう考えているのかとの質問に対し、本市児童生徒の学力レベルが全国平均より上回ることを目指してICT機器を活用・導入するビジョンを立てているが、他市よりも先行する必要はないと考えている。

【教委生涯学習課】

【教委教育総務課・学校教育課】

(仮称)総合情報センター開館に向けての説明の中で、建設工事は4月末まで、駐車場整備事業を7月中旬まで、その他として北部公民館・平戸図書館の移転準備、8月1日オープン等計画が示された。

【市民福祉部市民課】

また、施設の正式名称を決定すること、併せて愛称を募集すること、関係条例改正を6月定例会に上程する方向で

進めていること等の説明があった。

【成人式開催事業】に關し

「成人式開催事業」に關し、予算措置は4地区で行われている成人式を一本化した場合の計上になつていていることが説明された。

【教委生涯学習課】

それぞれの地区の思い等も理解できるが、市がはっきりした方針を早く示すべきではないのかとの質問に対し、成人を迎える方々および各地区の思い、そして合併10周年の節目の年でもあるので市側の考えも十分伝え、夏までには方針を決定したいとの答弁があった。

●議案第41号「平成27年度平戸市国民健康保険特別会計予算」について

国保財政調整基金からいくら取り崩すのかとの質問に対し、平成27年度は1億3千950万円を取り崩した上で保険料を据え置き、市民の負担軽減を図りたいとの説明があった。

「成人式開催事業」に關し、予算措置は4地区で行われている成人式を一本化した場合の計上になつていていることが説明された。

【成人式開催事業】に關し

それぞれの地区の思い等も理解できるが、市がはっきりした方針を早く示すべきではないのかとの質問に対し、成人を迎える方々および各地区の思い、そして合併10周年の節目の年でもあるので市側の考えも十分伝え、夏までには方針を決定したいとの答弁があった。

【教委生涯学習課】

それぞれの地区の思い等も理解できるが、市がはっきりした方針を早く示すべきではないのかとの質問に対し、成人を迎える方々および各地区の思い、そして合併10周年の節目の年でもあるので市側の考えも十分伝え、夏までには方針を決定したいとの答弁があった。



▲鳥取県立図書館での調査

行政調査報告

平成26年11月4日から6日までの3日間「自発的な介護予防事業の推進についておよび公共図書館の市民課題解決支援(サービズ)」について「次」とおり調査を行った。

調査地

◎岡山県津山市

「こけないからだ体操」という軽度の筋力アップ体操を通じ、高齢者の健康維持と地域力アップに取り組んでいる。

◎鳥取県立図書館

本を貸す図書館から県民を支援する図書館(図書コーナーを設ける等)に脱却し、全国からその活動が評されている。

委員の所感

川上茂次委員長

【鳥取県立図書館】

教育庁から知事部局に図書館を位置付け、館長は次長職とし直接予算折衝権を持たせ、図書館の位置付けを高めたお

平石博徳副委員長

【津山市】

高齢者の足腰、肩の筋肉をしつかり鍛えることで、転倒しにくく活動的に行動できることを目指して取り組んでいる。

高齢化が進む中で、体操はどこの地区でも、誰でもできる取り組みであるが、自分だけではなかなか実行できない、やはりみんなで集まって、「取り組むことが自分のため」と思い実践してこそ、将来、地域の医療費抑制に繋がると理解を深めることができた。

田島輝美委員

【津山市】

「こけないからだ体操」は高度なものではない。体操は



▲津山市での調査

「介護・医療費」の抑制はこれからの地方行政運営につきつづけた最大の課題であり、介護福祉計画等の作成にあたり今回得た情報を委員会等で提案していきたい。

山崎一洋委員

【津山市、鳥取県立図書館】

こけないからだ講座では、市民が自主的に健康づくりに取り組んでいた。お年寄りが元気に暮らす平戸市であるためにも、平戸市でも取り組むべきだと思った。

鳥取県立図書館は、図書館職員が館外に出かけて、各種の仕事に取り組むことが特徴とのことだったが、他の部局との関係が気になった。また、平戸市で同様のことを行うために、あえて職員を増員して

まで取り組むべきか研究課題だと思ふ。

山田能新委員

【鳥取県立図書館】

図書館に入ると、まず目に入ったのが子育て応援コーナーである。館内を回るとさまざまな分野の図書応援コーナーがあり、目を奪われた。独特のコーナーとしては、ビジネスヒント調査コーナーがあり、なかには起業して雇用創出につながった事例もあったとのことだった。

また、闘病系文庫コーナーでは病氣と闘った方の本が並べられていた。これらの本を読み勇気付けられ、重い病氣と闘われた人がいるとの話もあつた。この「応援」する姿勢が、この図書館の最大の魅力であり、サービズ精神を感じた。